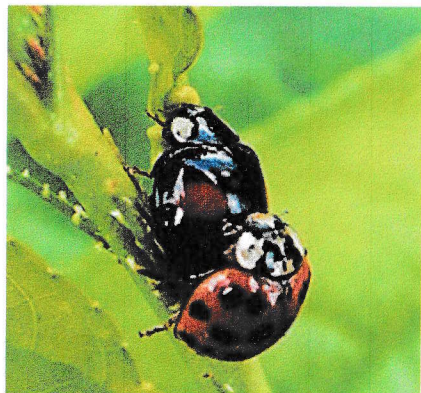


ユリノキの町から 風の便り 62 2023 (令和5) /12/1. 八千代市ユリノキ台 辻 秀幸

テントウムシのサンバ (昆虫綱・コウチュウ目・テントウムシ科) 参照: No. 15, 42, 47. 嫌われるムシがいる一方で好感度抜群のムシがいます。その代表みたいなのがテントウムシ。記録した何種類かの総動員です。

ナミテントウ



模様(紋の数)、色違いが多い。ここに並べた二紋型(紋二つ)と紋型(紋がいっぱい)のほか、さらに四紋型と紅型(紋無し)の赤色があり、細かく見ると100以上が知られているという。さらに個体差がわかる。生物多様性だ。模様が違えば名前も違うと考えてしまうが、学者先生はさすがにそんな安易な仕分けはしない。

左のカップルの写真は模様違い(メスは二紋型で紋は赤色、オスは紋型)だが、研究によると相手の模様をえり好みしているらしい。お互いを選ぶ権利がある。



↑ 2021/4/11. 船橋・浜町1.「浜町公園」
↳ 地色が黄色の紋型。2021/5/12. 船橋・浜町1.「浜町公園」
⇒ 紋が黄色い二紋型。2019/5/17. 船橋・浜町1.「浜町公園」



ヒメカメノコテントウ

カップルだったので同種と知った。別々に見つけたら同じ仲間とは思えない。



↳オス ↑メス

2018/5/24. 船橋・浜町1.「京葉管径」法面

両方(他に全体が真っ黒というのもある)を紹介している図鑑があるので、シロート昆虫博士は助かる。羽の合わせ目の黒い帯が共通ですという説明もあったので、なるほどと納得。

初めて見た瞬間、背中に十字架を背負っているように感じた。

ニジウヤホシテントウ



ナミテントウと違って、こちらは紋の数によって名前が異なるからややこしい。ほかに、ヨツボシ、トボシ、ジウサン、ジウシ、ジウクなどがある。

なぜかわからないがこの名前を真っ先に覚えた。テントウムシといえばニジウヤホシだと思い込んでいた。浜町公園ではナミとナナホシが中心でそのほかはめったに見なかった。

⇐ 2017/6/26. 船橋・浜町1.「浜町公園」

ナナホシテントウ

昆虫写真といえば、飛び立つ瞬間。用事ついでに写そうというムシのよい私には無理。たまたま羽化したらしいところに出あい、前羽をゆっくり閉じたり広げたりしているところを写せた。模様は裏っかわまで届いていると分かった。はばたくのに使う後ろ羽はこれから広がります。

2018/4/25. 船橋・飯山満2.「千葉病院」前 ⇐



ダンダラテントウ



一見ナミテントウ。触角で見分けられるというが、そこまでは確認しなかった。模様だけの判断。

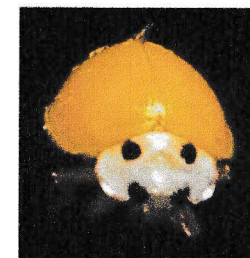
名前は漢字で「段斑瓢虫」。段だら染め、段だら模様からの命名だそうです。新選組のユニホームの袖や裾にあるあの三角模様です。この写真の模様では首を傾げますが、図鑑の模様違いの中にそういえばそう見えないうこともないか、というのが居る。

⇐ 2019/3/27. 船橋・浜町1.「浜町公園」

キイロテントウ

うどんこ病の菌を餌にするヨイコ。体についた菌を他の葉や実へ運ぶことがあるので、その点は園芸家や農家の皆さんはご注意ください。私が見たナミやナナホシの羽化では、はじめは地の色が黄で、見ている内に赤くなったり黒い点があらわれたりと変化した。このテントウはそういったエネルギーや時間を惜しんで種の維持に奮闘努力するのでしょうか。

2023/7/10. 八千代・ゆりのき台5.「サニーハウス」1F室内 ⇐



花屋さんで色、柄違いのバラを選びました。名前を聞きました。これと

バラ



2023/11/15.

スプレーバラ



2023/11/15.

これはバラ、こちらはスプレーバ。スプレーバとは耳のせいの聞き間違いで正しくは スプレーバラ。スプレーギクというのは知っていて、色の様子からスプレーで色を吹きつけたイヤミなヤツだと嫌っていました。で、このバラも着色かと思いました。

調べました。spray 花の付く茎がさらに分かれてそれぞれに花が咲く種類のこと。噴霧器で香水を噴射するように花がワッと咲く様子からの命名らしいと知りました。また一つ知識が増えました。

今後はスプレーギクと名札のある菊も選ぶ対象にしようと思い、決めた目を窓に向けると、すけすけになったユリノキの姿があります。

バラは八千代市の市の花。私が歩く範囲では探さないと見つからない程度です。市の花を市民投票で決めたのは平成9年ということなので、すでに京成バラ園が有名になっていた頃でしょうから、そんなことが皆さんの頭にあって投票したのかなと思います。